

【タイトル】 12月研修会

【担当部会名】 女性部会

【日時】 平成22年12月13日（月）PM4：00～PM7：00

【場所】 アンフェリシオン

【演題】 「酒税行政の現場から～お酒はおいしく飲みましょう～」



【講師】 堂前弘幸副署長（江東東税務署）

【概要】

講演では、堂前副署長は前任の熊本国税局課税部酒類調整官というお立場から、酒類行政に携わった経験と知識をもとに、酒税の歴史、焼酎の歴史、焼酎ブームと健康などの講話と国税局別酒類消費量などの

統計数値を紹介した。

その中でも特に、**酒税の始まり**は、1371年の足利時代に営業免許税的性格を持ったものが設けられ、その後明治時代になって、今日のような消費税的性格を持つ酒税制度になったという。

続いて、**焼酎ブーム**については、昭和51年前半の高度経済成長期のさつま白波の「6：4のお湯割り」が第1回目のブームで、次いで平成15～17年頃には「焼酎の成分は体によい」と消費量を伸ばし、蔵に眠っていたものまで売れたという。

しかしながら、最近では父親が晩酌をしなくなったり、若者があまり飲酒を好まなくなったりして、焼酎の消費量は落ち込む状況にあり、加えて焼酎の粕は、陸上投棄で重油によって処理するため、コストがかかるなど、今日の焼酎を取り巻く環境は厳しいものがあるという。



堂前副署長は、最後においしいお酒の飲み方は「自分にあった飲み方をするのが一番」と講演を結んだ。